



## 平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	3-1-2			事業名	認知症サポーター養成事業		
<b>達成目標の状況</b>							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (実績)	22年度末 (目標)	
認知症サポーター養成数(累計)	1,862人	4,207人	7,052人	12,013人	17,227人	9,000人	
<b>市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)</b>							
<p>■市民との連携、市民参加 サポーター養成講座は、キャラバン・メイト(市内介護事業所に従事する介護職員や、地域包括支援センター・介護予防センター職員、認知症の人と家族の会会員等)がボランティアで講師となり実施している。</p> <p>■企業等との連携・協働 [資金協力](該当なし) [人材協力](該当なし) [情報協力](該当なし) [その他の協力](該当なし)</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり (該当なし)</p>							
<b>評価(成果)</b>				<b>課題</b>			
<p>・認知症サポーター養成講座について マスコミや各種研修会を活用した事業周知、キャラバン・メイトの活動等によって、地域住民や企業等を対象とした講座の回数が増加し、認知症サポーターは、当初の目標値であった9,000人を大きく超え17,227人を養成することができ、認知症の市民理解が進んだ。 また、平成21年度に開始した本市(福祉職場)職員の認知症サポーター養成講座では、平成22年度までの2年度間に、目標としていた1,000人には届かなかったものの935人を養成した。</p> <p>・キャラバン・メイトの育成について 効果的・効率的に認知症サポーター養成講座を実施するため、定期的にキャラバン・メイト養成研修及びフォローアップ研修を行い、数と質の確保に努めた。</p>				<p>・これまで市民(町内会など)や企業を対象とした認知症サポーター養成講座が中心であったが、今後は若年層に対象を拡大していく必要がある。</p> <p>・キャラバン・メイト同士の連携の場が少なく、個々の活動内容に差が生じており、質の平準化が必要である。</p>			
<b>今後の事業の予定・方向</b>							
<p>・高齢化の進展に伴い、今後も認知症の増加が見込まれるため、引き続き市民理解の推進に有効である認知症サポーター養成講座を実施する。</p> <p>・認知症サポーター養成講座の受講対象者を、小中学生(保護者を含む)等の若年層へ拡大していくための体制整備を行う。</p> <p>・キャラバン・メイト同士の連携づくりと、質の向上を図るため、フォローアップ研修を行う。</p>							

## 平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		3-1-2			事業名	認知症サポーター養成事業				
事業費の推移										
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計				
計画	事業費	—	—	—	—	—				
	財源内訳									
	国・道支出金					0				
	市の債					0				
予算	事業費	867	656	627	687	2,837				
	財源内訳									
	国・道支出金	526	399	375	412	1,712				
	市の債	0	0	0	0	0				
実績	事業費	341	465	508	651	1,965				
	財源内訳									
	国・道支出金	207	283	304	390	1,184				
	市の債	0	0	0	0	0				
	その他	64	87	102	130	383				
	一般財源	70	95	102	131	398				
事業費の進捗率		(H19実績+H20実績+H21実績+H22実績) / (計画事業費)					—			
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)										
《全体》										
[19年度]										
[20年度]										
19年度の認知症サポーター養成数の伸び率を考慮して20年度予算を計上していたが、実績が見込みを下回りテキスト代等の支出が少なかった										
[21年度]										
[22年度]										